

令和元年8月6日

農業協同組合米穀生産指導担当者様
全農長野生産事業部米穀課担当者様
全農長野中信事業所生産販売課米穀担当者様
関東農政局長野支局松本地域センター担当者様
長野県農業共済組合中信地域センター

松塩筑支所、安曇野支所担当者様

松本農業改良普及センター技術係作物担当

令和元年 作物技術普及情報 第8号 (出穂期予測、刈り取り開始予測、高温障害対策)

(4枚 送付)

1 水稻の生育状況

豊科定点圃場(稚苗5月15日植)では

「あきたこまち」7月29日、「美山錦」8月2日に出穂期となりました。

早生種の出穂期は「平年より1日遅く、昨年より5日遅い」です。

「コシヒカリ」は8月6日に出穂期となり、「平年より3日早く、昨年より3日遅い」状況です。

「コシヒカリ」は先週から出穂が始まり、平坦地では8月4日前後に出穂期を迎えたと見られます。

令和元年8月6日現在 水稻生育状況

	安曇野市豊科 水稻奨決ほ(5月15日田植 稚苗) (標高:560m)							
	コシヒカリ				あきたこまち			
	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	幼穂 形成期	出穂期	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	幼穂 形成期	出穂期
本年	46	617	7月16日	8月6日	46	558	7月6日	7月29日
平年	49	648	7月17日	8月9日	50	549	7月6日	7月28日
平年比	93%	95%	1日早	3日早	91%	102%	同日	1日遅
昨年	51	579	7月11日	8月3日	50	478	7月2日	7月24日
昨年比	89%	107%	5日遅	3日遅	91%	117%	4日遅	5日遅

2 DVIによる出穂期予測・刈取開始予測(8月6日現在)

刈り取り開始予測の「平年より2℃高温版」を目安にすれば、急な高温条件になっても対応が可能と思われますので、施設稼働計画や収穫計画にご活用ください。

平坦部の早生種(あきたこまち、美山錦など)は7月下旬に出穂しており、向こう1ヶ月の気温は「高い」と予想されていることから、刈り取り開始や成熟期は「平年並み～昨年より遅い」と予想されます。

現在出穂～穂揃い期であるコシヒカリも同様の傾向になると思われます。

このため早生品種は8月下旬から、コシヒカリも5月5日までに田植えしたものは9月初旬からの収穫を想定して、コンバインや乾燥施設の稼働準備をお願いします。

8月6日 現在の刈り取り開始～成熟期予測

5月15日播 (標高550m)		出穂期 (中苗:大町要決から推定)			刈り取り開始			成熟期			
		本年	昨年	平年値	登熟期間の気温		昨年	登熟期間の気温		昨年	平年値
					平年並	平年より2℃高		平年並	平年より2℃高		
あきたこまち	稚苗	7月29日	7月23日	7月28日	9月4日	9月4日	8月26日	9月9日	9月9日	8月31日	9月9日
	中苗	7月25日	7月18日		8月29日	8月29日	8月24日	9月3日	9月3日	8月29日	
コシヒカリ	稚苗	8月6日	8月2日	8月9日	9月17日	9月16日	9月9日	9月22日	9月21日	9月14日	9月24日
	中苗	8月3日	7月28日		9月10日	9月10日	9月3日	9月15日	9月15日	9月8日	

注) 昨年値は、平30年 9月3日 の最終予測値、本年の稚苗あきたこまち、コシヒカリ の出穂期は実測値。

3 高温登熟障害対策について

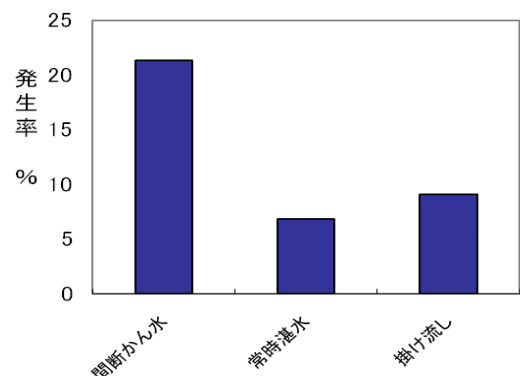
向こう1ヶ月の気象予報では、気温は「高い」と予想されています。

出穂から2～3週間が高温で経過(高温登熟)すると、玄米は白未熟米や胴割米の発生しやすい体質になるので、出穂以降の水管理は、高温登熟障害の軽減対策として重要になります。

【8月の高温障害対策ポイント】

① 「出穂前後3週間の湛水」

高温登熟による白未熟粒、胴割米の発生防止のため、出穂前後3週間は、圃場に水が入っている状態として、土壤水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟となるように、水管理の徹底をお願いします。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)
注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。
湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

著しい高温が続く場合は、水利条件が可能で、生育遅れの無い圃場では、水温が高くなった田面水の入れ替え（掛け流しや昼間入水等）も、ご検討ください。

② 早期落水の禁止

収穫適期が早まることが予想されるため、早く落水して、土を固めたい（早期落水）・・・と思う場面があるかと思えます。

しかし早期落水は胴割米・白未熟米の発生を助長する（特に登熟期間が高温・干ばつになる場合は多発の恐れがあります）ので、作業に支障のない範囲で、落水は極力遅くし、作業優先の早期落水は避けるようお願いいたします。

また8月下旬～9月初旬に刈り取りを迎える早生種は、収穫時期が高温で乾きやすい気象条件になるので、ご注意ください。

4 いもち病防除について

アメダスデータやクロップナビによる発生予察情報では、7月中旬頃から発生好適条件・準好適条件が頻発しており注意が必要です。

7月末から8月末にかけて降雨が多い状況になると、一気に広範囲に発生する恐れがあり（特に穂いもち）、油断は禁物です（平成23・25・26・27年がこのような年でした）。

常発地帯・昨年多発した圃場
有機物のすき混みの多い圃場
わらや脱穀の残渣を放置した場所
苗箱剤の未使用圃場（直播圃場）

・・・等では、葉いもちの発生状況（止葉を含めた上位葉の発生の有無）に十分ご注意ください、上位葉に発生が認められた場合は、必ず穂いもちの防除を行って下さい。

5 カメムシ、イネツトムシの発生状況について

今年はカメムシの発生が平年より多い状況にあります。発生状況にご注意いただき、適期防除をお願いいたします。

またイネツトムシは葉色の濃い圃場、直播圃場、晩植圃場、飼料米品種圃

場、晩生品種（風さやか等）圃場で発生が多くなる傾向がありますので、発生状況にご注意ください。

6 大豆の生育状況と開花期の干ばつ対策について

麦後大豆の出芽は良好でした。

梅雨明け後は降雨が少なめで畑は干ばつ傾向です。麦後大豆は、お盆前後から特に干ばつの影響を受けやすい開花期を迎えます。

葉のしおれに注意し、入水可能な圃場（用水が十分にある、茎疫病等の立枯れ性病害は発生していない）では灌水をご検討ください。灌水の時期が遅くなるほど、植物体が弱って茎疫病に感染し易くなります。灌水する場合は早めに実施してください。

灌水にあたっては、昼間の暑い時期は避け、夕方以降に入水をお願いします。灌水した場合は全面に水が行き渡ったら、直ちに排水してください。

また、急な雷雨やゲリラ豪雨により、短時間で圃場が滞水することも予想されます。排水対策はされていると思いますが、今一度排水路の点検をお願いします。

7 そばの播種時期について

そばは播種期が遅れるほど減収しますので、排水対策を講じつつ、お盆前には播種作業が終わるようにお願いします。